

・「学び」つまり「理解」した内容を、「定着」させるために様々な練習(「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」など)を繰り返してしっかりと身に付け、自分のものにするのと現代的には解釈されます。

◆「亦た説ばしからずや」とは、「これまた何と喜ばしい、愉快なことではないか」の意味。

Q：塾長は何が言いたいのですか。

A：孔子が「論語」で教えて下さったように、「学習」の「学」と「習」は違う、異なるので分けて考えたほうがよいということです。

(1)「学習」の「学」は「うんなるほど」とよく「理解」すること、「習」は「うんなるほど」とよく「理解」したことをしっかりと身に付けること・「定着」させることと分けて考えたほうが、「学習」の「効果」は高まると私は考えます。

(2)「学習の3段階理論」は、「学習」の「学」を「理解」、「習」を「定着」と分けて考え、これに「応用」をつけ加えるものです。

(3)「論語」はこの第1章の最初の「まな とき こ なら ま よろこ ば し から ず や」からスタートして、全部で499章あります。孔子が58歳ぐらいから約10年間、才能ある自分を雇ってくれる王様を求めて中国各地を弟子たちとともに訪ね歩き、誰も雇ってくれないので故郷の曲岐きよくふに戻って塾を開き、73歳で亡くなるまで様々なことを教えた内容を弟子たちがまとめたのが「論語」です。「古典」の中の「古典」と言われる「論語」を読むと、孔子は「じん」つまり「いつくしみ、思いやり」「れい」礼にもとづく自己抑制じこよくせいの人、「徳が高く品位ひんいの備わった人格者」である「君子くんし」になることを目指していたことがわかります。

(4)「学習の3段階理論」を考えるときに、私はこの「論語」から多くのことを学ばせて頂きました。「論語」は中学校でも少し学習しますが、高校の国語科の「漢文」や、社会科の「倫理」の時間に「論語」や「孔子」のことを詳しく学びます。高校で「漢文」や「倫理」を学ばない人は、図書館や書店で「孔子」や「論語」の本を手に取り、是非一度じっくりとお読みになることをお勧めします。

(5)漢文はもともと中国から伝わったものですが、日本の文化、日本の思想そのものになっていますので、日本人として一度はきちんとゼロから学習なさることをお勧めします。日本とは何か、日本人とは何か、自分とは何かを知るために「漢文」は必要不可欠だからです。

論語や漢文の研究は日本のほうが中国よりも遥かに進んでいる分野が多いと言われるほど、論語や漢文は日本人のものになっています。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)開倫塾の社会的使命は、「人生の成功の実現」と「正常に機能する社会の実現」に貢献することです。

(2)この「学習の3段階理論」を塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、開倫塾の教職員の皆様に身に付けて頂き、自らの人生の中で多様な選択肢をお持ちになり、自分の人生を自分の力で切り開くという意味での「人生の成功の実現」と、数多い現代の社会的課題を自分たちの手で解決することにより、社会を正常に機能させる役割を一人ひとりが担うことが実現されればと心から願うものです。

一人ひとりが自分なりの学習方法を身に付けることが、個人の成功の実現にとっても正常に機能する社会の実現にとっても大切と考えます。この「学習の3段階理論」がそのために少しでもお役に立てば有難く存じます。

— 2012年8月14日林明夫記 —